

まちづくり
戦略

7

持続可能なライフスタイルの継承・発展

地球温暖化は、自然災害の頻発や健康被害、水や食料不足に加え、生物多様性の損失をもたらすなど、わたしたちの暮らしにとって大きな脅威になりつつあります。50年後、100年後も持続可能なまちであり続けるには、ひとりひとりがこれまでの生活を見つめ直し、環境負荷を低減させるための具体的な行動を実践していく必要があります。

2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」に向け、国内外から多くのひとが訪れる、伝統と進取の気風をもつ中京区から、環境に配慮したライフスタイルやまちなか緑化の取組を推進し、広く発信していくことにより、持続可能な社会の実現に貢献します。



① より環境負荷の低い消費・販売・生産活動への転換

限られた資源を有効利用し、持続可能なまちづくりを推進していくには、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会構造を転換していくことが求められています。また、コロナ禍で停滞した社会や経済をよりよく立て直すには、地球温暖化の防止と消費・販売・生産活動の両立を図ることも重要です。

生産から消費、廃棄まであらゆる段階での意識と行動の変革をめざし、食品ロス対策といった2R^{※1}及びリニューアブル^{※2}や省エネルギー等の取組を事業所の集積する中京区から推進していきます。

<主要な取組>

- エシカル消費(倫理的消費)^{*}など、環境に配慮した消費行動の普及啓発
- 森林資源の持続的な利用など、ひとと森林のかかわりの最大化をめざすグリーン成長^{*}の促進
- 家庭・事業所での太陽光発電や雨水利用の普及など、省エネルギーの取組促進

② 昔ながらの暮らしの知恵の再発見

通り庭等のさまざまな工夫が施された京町家や、ものを大切にする「しまつの心」など、中京区には、快適に過ごすための「暮らしの知恵」が受け継がれています。こうした先人の知恵に学ぶとともに現代の最新技術との融合を図っていくことで、無理なく、少しの手間や工夫で環境負荷を抑えた快適な暮らしの実現をめざします。

<主要な取組>

- しまつの心やおばんざいの食文化など、「暮らしの知恵」の発信
- 家庭や地域で実践されているエコ活動の先進事例の発信
- 伝統産業を通じた環境問題の意識啓発の推進(再掲)



グリーン成長

森林の適正な管理と、森林資源の持続的な利用等により、林業・木材産業が内包する持続性を高めながら成長発展させ、ひとびとが森林により発揮される多面的機能の恩恵を享受することを通じて、社会経済生活の向上とカーボンニュートラルに寄与すること

★エシカル消費(倫理的消費) P20参照

※1 [2R] そもそもごみを出さないリデュース(Reduce)と再使用するリユース(Reuse)

※2 [リニューアブル(Renewable:再生可能資源の活用)]石油等の化石資源と比べて短時間で再生できる資源(再生可能資源:植物等の天然資源)を原材料として利用することで、資源の枯渇や温室効果ガスの発生を抑制するという考え方



3 環境に配慮した交通手段の利用促進

公共交通機関が充実し、徒歩や自転車での移動も容易な中京区から、過度にクルマに依存しない生活の機運を高め、率先してエコな移動方法を選択する運動を展開することで、環境はもとより、健康にもやさしいまちをめざします。

<主要な取組>

- 過度にクルマに依存しないライフスタイルの普及啓発
- 自転車ルール・マナーの改善を呼びかける啓発の実施

4 緑化とまちの美化の促進

身近な緑を増やすまちなか緑化の取組と、かど掃きや一斉清掃等の地域で活発に行われている環境美化活動を促進することで、環境にもひとにもやさしいまちづくりを進めます。

<主要な取組>

- 家庭や事業所における屋上やベランダ、庭先、沿道での緑化の促進
- 次代を担う子ども向けの緑化や生物多様性も含めた環境に関するイベントの開催
- 区民ぐるみで進める環境美化活動の促進



ココに注目!

戦略7 できることから始めよう!

持 続可能な社会の構築に向けては、環境対策、とりわけ地球温暖化対策は急務となっています。地球温暖化の影響が深刻化する今日、我が国においても、2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会^{※3}の実現をめざしており、また、京都市においても2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」に取り組むこととし、わたしたちひとりひとりが、環境に配慮した生活を実践することが求められています。

皮肉なことにコロナ禍においては、経済活動の停滞で温室効果ガスが一時急減しましたが、一方では外出自粛やテレワーク等によって、テイクアウトやデリバリーの使い捨てプラスチックごみが大幅に増加するという問題も生じました。

このように、わたしたちの行動や生活スタイルの変化によって、環境対策は大きく変わります。**ひとりひとりが何を残し、何を变えていくのかをしっかりと意識しながら、それぞれのくらしのなかで工夫し、できることから続けていくことが、この戦略実現のためのポイントです。**

マイバッグやマイボトルを持参する、食材は使い切り食べ残しをしない、生ごみの水切りを徹底する、自転車や公共交通を積極的に利用するなど、**わたしたちにできることはたくさんあります。**また、坪庭や虫籠窓、打ち水や建具替えなど、京町家のしつらえや先人たちの知恵には多くの学ぶべきことがあります。

ひとりひとりが「じぶんごと」として地道な取組を続けていくことが、やがて大きな流れにつながっていくのではないのでしょうか。

※3 「脱炭素社会」 地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出源となる化石燃料の使用から脱却し、持続可能な発展が可能となった社会